

要求の心理から見た保育用品

愛知県立女子短期大学

江 上 秀 雄

児童の行動は児童のもつてゐる要求 (need, das Bedürfniss) によつてひき起されるものであると、説明はクレンツ(K.J. Kempf)に端を発し、トマス(W.I. Thomas)トルマン(E. C. Tolman)を経てその後多数の学者が行つています。そしてその基本的要求としてはどんなものがあるかということにつきましては、諸説が一致していませんが、食欲や排泄、性的満足や活動等という有機的、生理的の要求と愛情や所属、独立や社会的承認という人格的、社会的要求の二群があるということは一致しています。何れにしてもこの要求という概念は本能論の復活ではなく、人間が周囲の社会と關係を持つことによつて内部的に緊張状態を呈し、或は又内部的に圧力を持つに至つたことをいうのであります。たとえば母体内の胎児にはいわゆる食物に対する要求が発現しているとは考えられません。彼が誕生して栄養の通路が切断せられ、同化作用によつて葡萄糖が消費せられ、母乳という刺戟が与えられると、始めて母乳への要求が発生するのであります。即ち葡萄糖の消費によつて、新生児の内部

組織条件の均衡が破れ、母乳の摂取によつて再び均衡が回復されるのでありまして、かくして不均衡と均衡が反覆されることによりまして新生児の中樞神経系統の組織に変化をもたらします。それは同時に外界刺戟の感覚であり知覚であります。人間にかような感覚知覚によつて食物に対する要求が発生するのであると考えるのであります。

児童にはかくの如くにして生じた様々の要求がありまして、その満足を求めて行動しているのであります。若し幸にしてその要求が満足されましたならば心理的に緊張は解消せられて均衡状態になりますので問題はありませんが現実にはとかく円滑に要求の満足を期待することは出来ません。寧ろ我々の生活環境には要求満足に對して阻止的、圧迫的に妨らく幾多の条件が存在して、それらに對処する仕方は個人により様々でありましてそこに変化に富む人間の行動が現われるのであります。

さて人間が要求の満足を求めるために目標追及の行動を繰返して

いて何かの条件の為に妨害をうけ阻止された状態になりますと要求阻止 (frustration) の状態と申します。又二つの乃至それ以上の相容れない要求、同時に存在の板ばさみとなる状況になりますと葛藤 (Conflict) といいますが、この何れの場合におきましても個体内部の心理的緊張は著しく高まり、この緊張を解消する為に種々の望ましくない反応が屢々産み出されるのであります。例えば攻撃、退行、逃避、抑圧、合理化、転嫁、自閉、同一視、投射、白昼夢などの不適応行動はそれでありませう。

されば児童の人格を形成せしめるに当つて是等の不適応行動を起させない為に彼等に要求阻止や葛藤の状態をとらせないことは教育上考慮すべき問題と存じます。然るに私共の使用しています保育用品には知らずくの間、児童に要求阻止の状態を起さしめるようなものがあると存じますので御賢考をお願いしたいと思います。私は外国留学中に買い集めてみました、二三の実物について説明申し上げます。

(一)、口の二つある哺乳ビン。この哺乳ビンは英国のものであります。たゞ掃除がよく出来て衛生的であるというだけのものでありません。嬰兒が一方の乳首を呑みながら他方の乳首を指でいちぢつて恰も母の乳首をなめる時の態度に出られる為のものであります。凡て哺乳という事は乳という液体を児童の胃の中に入れるというだけのものでなく乳首を吸嚙する際の感覚的または情緒的気分を味わせることが大切であります。同哺乳に際しての要求不満を少くしようとする考えから生れたものであります。

(二)、布製の絵本。この絵本はドイツのものであります。凡そ二才

までの児童にとりましては絵本は玩具であつてもあそぶ為のものであります。破つたりよごしたりするものであります。然るに、我々は之を愛児に与える時に「之は大切だから、破つてはいけません。よごしてはいけません。」といつてすでに与える時から児童に要求阻止を感じさせています。然るにドイツの母は之を児童に与えて「破つてもよろしい。よごしてもよろしい。思う存分遊びなさい。」といひます。丈夫な布ですから子供の力では破れません。よごれたら石鹸をつけて洗濯します。経済的で而も衛生であります。

(三)、先の左にまがつた匙。これは左利の児童を右利に矯正するときに使用するものであります。我々の矯正の仕方「あなたの右の左手で御飯を食べる者には御飯を食べさせません。」といつて箸をかくしたり、御飯を取り上げて児童に対して権威的に喰みますので彼等の要求を阻止すること大なるものがあります。而も矯正の実はなかなかあがりません。然るにドイツの家庭では家族一同が食卓を共にして皆がこの匙で食べます。この匙は右手で持てば食物をすくつて口に入れることが出来ませんが左手では食物がこぼれて口に入りにません。こうして談笑のうちに悪癖を矯正しています。而も三才までの自我の主張の少ない矯正の効果のあがり易い時期にやつてしまひます。三才をすぎますと反抗期に入りますので児童の心に要求阻止を強く経験する年令になりますのでこの時期に強制的指導は避けようというのであります。

(四)、鶯や牛の鳴声を出す笛。此等は皆児童の生活意識から割り出した保育用品であります。粗暴な子供に対して親が勘高い声でコラ／＼と叱つては反抗心が生じ人格的要求が阻止されます。そんな時

に牛が「もう——」となくと、我々の友がよんでくれた。牛のよう
に悠々たる態度に出ますよという気になります。一体自然の世界
には偽りがありませんが人間の世界には偽りがありかけひきがあり
ます。自然の生活をあこがれる児童には牛はよい友であります。我
が国の幼稚園の組分けに赤組とか青組とか色の名を用いているとこ
ろがありますが、あれは呼ばれたときに発音を弁別してこれをき、
分ける事に注意を払わなければならないのみならず、自分の属する
組を覚えるのにも一苦労でありまして、始めて登園する園児にはこ
れが又要求阻止になります。外国では自然界から名をとつていると
ころが多くあります。牛組の先生は牛先生、鶯組の先生は鶯先生と
一度覚えておけば翌日はこの笛を吹いて牛の鳴声のする所や先生を
めざしてゆけば、自然自分の室にゆけるといふしくみであります。

④、安全帯。布製のバンドを児童の胸から腹に当て、背中ではばり
その先を二米位の紐にしてこれを母が手に持つて児童を牛を追うよ
うな恰好で連れて道を歩くときに使用するものであります。一体児
童は大人よりも運動するものでありますから、衝を歩かせていても
右往左往、あちらのショウウインドをながめ、こちらの犬に気をと
られるものであります。その時に紐をゆるめて、要求を満足させて
やります。もうよかろうと思へばぐつとひきます。するとこちらへ
走つて来ます。ころびそうな道を歩くときには紐の長さをみぢかく
して我々が児童の手をひら恰好で連れて歩きます。児童の身体のア
全をはかる為のものでありますから安全帯と名づけています。
⑤、さげ椅子。布製の子供用椅子で足がなく左右の拵掛のところ
が両親の手によつてさげられるようになっていきます。一体児童は次表

のごとく極めて活動的のものでありますので、このさげ椅子や、前
記の子守帯が考案されたものであります。日本のように母が子供を
背負つていては活動を制約するのみならず絶えず母の後頭部をみつ
めていいますので視野のせまい人間になると外人はいいます。この椅
子に腰をかけさせておけば、降りたい時には何時でも降りられま
す。而も眼の前には何等の障害もなく極めて広い自然が展開されて
いて気宇瀾大、視野の広い人間が出来うると信じています。そして
子供のお守はお母さんだけがするものでなく、父と母とが共々に負
担をするというのがこの椅子のねらいであります。

——児童の一日中に於ける身体運動の程度——

(佐々木哲丸小児科学による)

年齢	平均値	小児/成人
0—6	一三〇九	一/一〇
7—12	二一四一	一/六
1—2	一一三四七	一/一
2—3	一八九〇二	三/二
3—5	一六五七〇	五/四
5—7	一八八八五	三/二
7—10	一八一七五	三/二
10年以上	二二九四二	二/一
成人	二九三八	一/一

以上はほんの一例にすぎませんが何れも児童を不必要な要求阻止

の状態におかしめないという考えから考案されているものであります。児童中心主義の教育観からいたしますならば、児童を監視したり、世話をやくよりは児童の要求を満たしてやるような工夫をすることが効果的であるということになります。勿論児童の求めるものを無視しては教育は行われませんがこの考は至当であります。然し児童の求めるものをそのまま、満すのみでも指導はあり得ません。寧ろある程度の要求阻止の経験はのぞましい人格形成の上から見て必須のものであります。この経験を通して児童は自己評価や、

音 遊 び

今、ラジオからどんなに美しい音楽が流れて来ても、それを聴こうとする態度と心がなくては音楽としては聴えず、たゞ音として聴えるかも知れませんが、又全く何も聴えないかも知れません。

四月に入園して来た子供がマーチに合わせて手が打てない、歩けな

現実認識の度を深め、人生に不可避のものとなつてゐる要求阻止によく耐え、それを克服打開してのぞましい適応をなしとげる技術を習得し、要求阻止によつて却つてある仕事への熱心、努力、さらには創造的活動さえ引き起されることもあり得ますから要求阻止必らずしも有害ではありませんが、我々は無意識的によりにも行く児童を躰けるの美名の下に彼等の要求を阻止して思わしからざる人格を形成せしめてゐるのではないのでしょうか。他山の石として外国に於ける保育用品を紹介した次第であります。

大阪基督教短期大学

小 木 曾

光

い、と云うのは何故でしょう。未分化時代であると云う事もありませんが、私は又、次の二つの場合もあるのではないかと考えて見ました。

一、その子供の持つてゐるリズムに音楽リズムが合わない場合。